

1837  
2017

沿革



# アテネ国立 カポディストリヤコ大学

2017年6月





## 目次

ビジョン	3
大学設立への ミッションと方針	3
運営目的	4
アテネ国立 カポディストリアコ大学の概要	4
行政と構造	7
歴史的に見る遡及	12
カリキュラム、施設とサポート	17
公開事業と国際関係	30
研究とイノベーション	35
付録	41



## ビジョン

アテネ国立カポディストリアコ大学(略称:アテネ大学)は、基礎教養を通じて幅広い分野の研究へと発展させ、すべての学術において完璧な教育を目指している。我々のビジョンは学業分野、研究に対するイノベーション、そして教育全般における開発だけでなく我が国ギリシャへの社会的および文化的分野における学術コミュニティへの積極的な参加を目指している。

## 大学設立へのミッションと方針

アテネ国立カポディストリアコ大学のミッションとは、近代ギリシャ国家の設立からの歴史的背景において、学習プロセスの改善、教育カリキュラムの発展を通じ若手研究者達への教育が進展し続けるとともに、ギリシャ社会と経済との繋りを持ち続けることである。21世紀への発展に伴い我が大学の教授、研究者、学生が各専門分野、医療機関、研究所の中でイノベーション、知識をさらに促進することである。私たちは、アテネ大学関係者であるなしに関わらず、全ての学術関連においてに促進と発展へ情熱を持つ人々に対し、協力の精神を持って新たな息吹をかけ、それを強化することを追求している。

大学の理念はギリシャ法、及びヨーロッパと国際法に基づいており学術関係者全てに(人種、国籍、性別、宗教等関係なく)同等の権利、義務、そして知識を提供することを方針としている。

## 運営目的

アテネ大学とその人的資源の歴史は、我が大学の発展の要であり、それらは運営目的と我々の使命及びビジョンを成している。

運営の目的は従来のままの伝統を継続し、ギリシャのみならず国際的にも各分野：教育、研究、文化といった全ての分野でのイノベーション、そして的確な判断を行った上で市民生活や国家に多大な影響を与え続けることである。こういった理由で各学部における機関が当大学のミッションとビジョンへの達成に貢献を齎せるよう公開を行っている。

アテネ大学の基本姿勢は海外からの学生候補者だけでなく教授達も満足できることである。また我が大学の学生たちが国際的レベルに、卒業生たちは国内外を問わず世界レベルに匹敵するように向上し続けることである。同様に社会的に何らかの結果を生み出すことが大学への貢献とみなしている。業績や発表作品(学術、研究、開発、社会、政策等)が実際に認められることで我々の社会や国家でも再認識され、それがアテネ大学への再評価となるからである。

## アテネ国立カポディストリアコ大学の概要

### 運営の歴史と現状

アテネ国立カポディストリアコ大学は1837年に創業され、元の名前は「オソン大学」である。当時の我が大学はギリシャだけでなく、バルカン半島と東部地中海地域全体でも最初の大学であった。

1932年に現在の「アテネ国立カポディストリアコ大学」と命名された。アテネ大学は「教育・研究・宗教省」に管轄されている。

## 学部・学科・施設

- 学部:8学部
  - 学位を授与する学科:33学科
    - 学部プログラム数:33
    - 修士プログラム数:136
  - 大学の研究機関:5
  - 大学病院:2
  - 保健部:76学科(うち60学科が医学部、看護学科11科、歯学科5科)
  - 研究所:210所、うち169ヶ所が官報により認証されており、41ヶ所は各学科/理事により認証されている
  - 図書館:8
- 博物館:歴史博物館、13項目別博物館—大学所有

## 人材資源:

- 教師、講師および他の教員:2,104名
  - 管理職:1,087名
- (総人員:3,191人)

## 学生:

- 学部生数:39,088名
- 大学院生数(Master):11,479名
- 博士課程者数:14,240名
- 海外留学生数:5,654名





# アテネ国立カポディストリアコ大学行政構造

## 学長

Meletios-Athanasios Dimopoulos教授  
Panepistimiou 30, 10679, Athens  
Tel: 210 368 9770, 210 368 9771  
Fax: 210 368 9717  
e-mail: rector@uoa.gr

## 副学長・管理主任

Napoleon Maravegias教授  
Panepistimiou 30, 10679, Athens  
Tel: 210 368 9776  
Fax: 210 368 9682  
e-mail: vrec-admin@uoa.gr

## 副学長・研究政策/開発担当

Thomas Sfikopoulos教授  
Panepistimiou 30, 10679, Athens  
Tel: 210 368 9772  
Fax: 210 368 9711  
e-mail: vrec-rd@uoa.gr

## 副学長・国際関係担当

Konstantinos Bourazelis教授  
Panepistimiou 30, 10679, Athens  
Tel: 210 368 9766  
Fax: 210 368 9691  
e-mail: vrec-acafir@uoa.gr

### 副学長・経済担当

Nikolaos Milonas教授  
Panepistimiou 30, 10679, Athens  
Tel:210-3689760  
Fax:210-3689711  
Email:vrec-fin@uoa.gr

### 副学長・学生支援担当

Georgios Polimeneas教授  
Panepistimiou 30, 10679, Athens  
Tel:210-3689779  
Fax:210-3689741  
Email:vrec-students@uoa.gr

### 副学長・厚生/社会政策担当

Georgios Zografos教授  
Panepistimiou 30, 10679, Athens  
Tel: 210 368 9773  
Fax: 210 368 9741  
e-mail: vrec-hospitalsgz@uoa.gr

## II. 財団理事

### 代表

Harvard大学 Georgios Tsokos教授  
Tel: 210 368 9724/9744  
Fax: 210 368 9700  
e-mail: council@uoa.gr

## III. 構成

理事は、学長、学部長、学科部長から構成されているが、理事会には副学長も参加する。

## IV. 学部と学科

学長と学部長の基に置かれている8学部と33学科は以下の通り。

神学部 (<http://deantheol.uoa.gr/>)  
学部長: Apostolos Nikolaidis教授

神学科 (<http://www.theol.uoa.gr/>)  
学科長: Thomas Ioannidis助教授  
社会神学科 (<http://www.soctheol.uoa.gr/>)  
学科長: Sotirios Despotis教授

法学部 (<http://www.law.uoa.gr/>)  
学部長: Dionisia Kallinikou教授

政経学部(<http://deaneconpol.uoa.gr/>)  
学部長: Michail Spourdalakis教授

政治・行政学部(<http://www.pspa.uoa.gr/>)  
学科長: Christos Lyrinzis教授  
経済学部 (<http://www.econ.uoa.gr/>)  
学科長: Nikolaos Iriotis教授  
情報メディア学部(<http://www.media.uoa.gr/>)  
学科長: Dimitrios-Stamatios Charalampis教授  
トルコ・現代アジア研究学部 (<http://www.turkmas.uoa.gr/>)  
学科長: Ioannis Mazis教授

哲学部 (<http://www.deanphil.uoa.gr/>)  
学部長: Eleni Karamalegou教授

文学科 (<http://www.phil.uoa.gr/>)  
学科長: Anfilochios papathomas教授  
史学・考古学科 (<http://www.arch.uoa.gr/>)  
学科長: Panagiotis Valavanis教授  
哲学・教育学・心理学科(<http://www.ppp.uoa.gr/>)  
学科長: Maria-Zoi Fountopoulou教授  
心理学科(<http://www.psych.uoa.gr/>)  
学科長: Chrysi Chazichristou教授

英文学科 (<http://www.enl.uoa.gr/>)  
学科長: Evaggelia Sakelliou - Schultz教授  
フランス文学科 (<http://www.frl.uoa.gr/>)  
学科長: Maria Papadima教授  
ドイツ文学科 (<http://www.gs.uoa.gr/>)  
学科長: Anastasia Antonopoulou 教授  
イタリア文学科 (<http://www.ill.uoa.gr/>)  
学科長: Georgios Mikros教授  
スペイン文学科 (<http://www.spanll.uoa.gr/>)  
学科長: Dimitrios Drosos助教授  
音楽研究学科 -学科長: Achilleas Chaldeakis教授  
演劇研究学科 -学科長: Anna Tabaki教授  
ロシア文学・スラブ語研究学科  
学科長: Eleni Stergiopoulou教授

自然科学部 (<http://www.deansos.uoa.gr/>)  
学部長: Konstantinos Varotsos教授

自然科 (<http://www.phys.uoa.gr/>)  
学科長: Nikolaos Tetradis教授  
化学科 (<http://www.chem.uoa.gr/>)  
学科長: Georgios-Isidoros Kokotos教授  
数学科 (<http://www.math.uoa.gr/>)  
学科長: Apostolos Bournetas教授  
生物学科 (<http://www.biol.uoa.gr/>)  
学科長: Kyriakos Georgiou教授  
地質環境学科 (<http://www.geol.uoa.gr/>)  
学科長: Nikolaos Voulgaris教授  
情報通信学科 (<http://www.di.uoa.gr/>)  
学科長: Antonios Paschalis教授  
史学・哲学サイエンス学科 (<http://www.phs.uoa.gr/>)  
学科長: Ioannis Christianidis教授



### 保健科学部

学部長: Efstratios Patsouris教授

医学部 (<http://www.med.uoa.gr/>) -学部長: Petros Sfikakis教授

歯学科 (<http://www.dent.uoa.gr/>) -学科長: Georgios Iliadis教授

薬学科 (<http://www.pharm.uoa.gr/>) -学科長: Panagiotis Marakos 教授

看護学科 (<http://www.nurs.uoa.gr/>) -学科長: Chrysoula Lemonidou 教授

教養学部 (<http://deanedc.uoa.gr/>)

学部長: Thalia Dragona 教授

初等科教育学部 (<http://www.primedu.uoa.gr/>) -学科長: Thomas Babalis 助教授

幼児教育科 (<http://www.ecd.uoa.gr/>) -学科長: Thalia Dragona教授

保健体育・スポーツ学科 (<http://www.phed.uoa.gr/>)

学部長: Nikolaos Geladas 教授



## 1.行政と学術構造

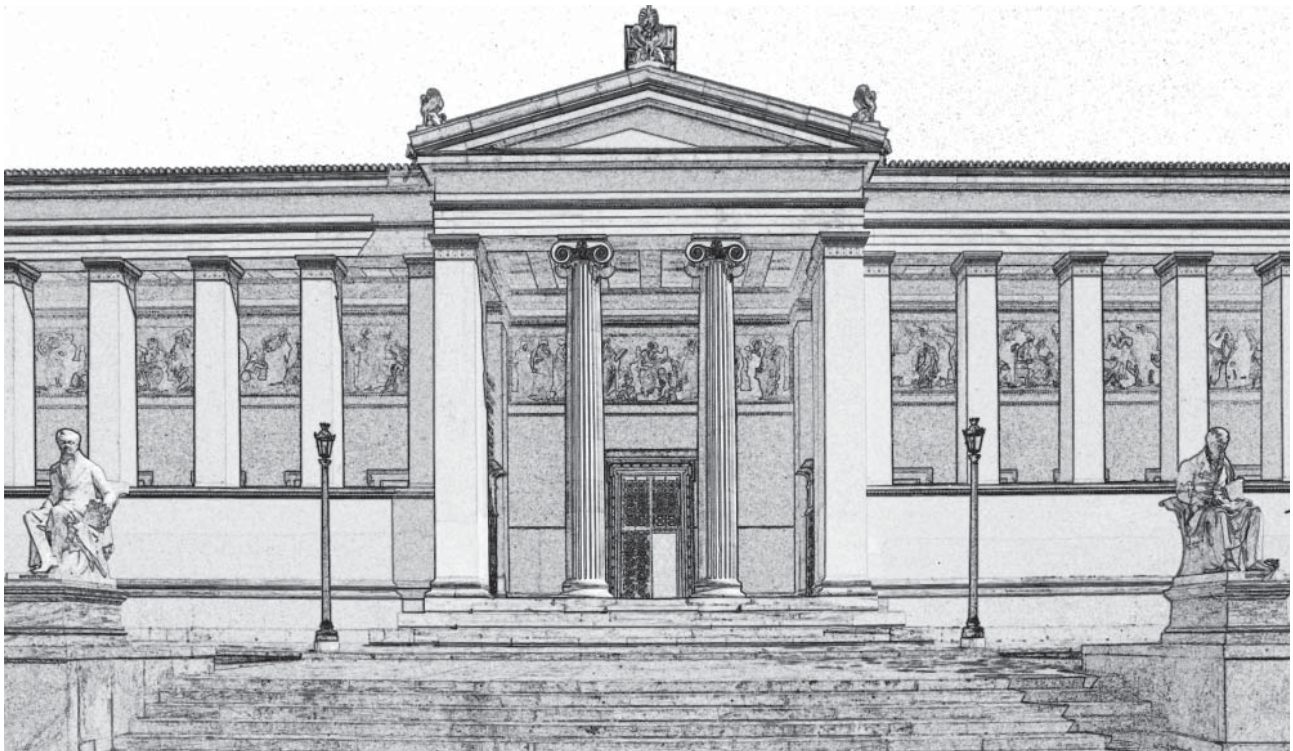
1837年4月22日に、アテネ国立カポディストリアコ大学は勅令を受け、ギリシャ初代王オソンを讃え「オソン大学」という名前で設立された。

神学、法律、医学、そして「哲学・一般学」の4学部としてスタートし、1年目当初は、教授33名、学生52名、75名の未登録の“聴講生”であった。

当初、大学はアクロポリスの北斜面にある新古典派の建物で建築家Stamatios KleanthisとEduard Schaubertの旧邸宅で運営されていた（現在は大学の歴史博物館となっている）。新しく設立されたアテネ大学はギリシャ共和国、そしてバルカン地域、東部地中海地域で最初の大学であった。

大学で生まれた知識や研究結果は歴史的にも社会的にも多大の影響を齎し、特に重大なことは国際的にも威信があったことである。

1841年11月、デンマークの建築家クリスチャンハンセンがデザインした建物に移転した。現在国際的にも名高い“Propylaea”として知られているその外観は、1842-1843年に完成。建物は画家カール・ラールの作品で飾られており、新古典派建築として国立図書館、アテネアカデミーとともに“建築三部作”の一つになっている。現在では、この歴史的記念建造物は大学の行政部、式典会場として使用されている。



1862年にオソン国王の退位により「オソン大学」は「国立大学」に改名。1911年7月17日のGOKE法に基づき、また、1849年2月4日の偉大なイオアニス・ドンボリスの遺言にも所以し、理論学部、哲学部、神学部、法学部を持つ「カポディストリアコ大学」と医学部、物理学部、薬学部を持つ「国立大学」は両大学の共通の理事と学長により1932年から法第5343/1932号の第1条によって両大学は「アテネ国立カポディストリアコ大学」と改名された。20世紀初頭まで、アテネ国立カポディストリコ大学はギリシャ唯一の大学で、ギリシア社会に多くの医学者、物理学者、社会科学者、法学者、経済学者、文学者、歴史学者、考古学者、教育学者、聖職者を輩出した。

多くの卒業生だけでなく教授達が、例えば、Georgos Papanikolaou, Eleni Glykatzi-Arverler, Konstantinos Karatheodoris等が科学、哲学、文学の分野における重要な役割を果たした。また、ノーベル文学賞受賞者にはOdysseas ElytisとGeorgos Seferis, Nikos Kazantzakis他9人がノーベル文学賞にノミネートされた。大学幹部には著名な詩人でもあるKostis Palamasがいる。

今日まで、アテネ大学は重要な科学、研究、教育を発展させることだけでなく、社会への貢献をも行っている。特に重要視している一つに国民への厚生分野があり、保健科学科の学生達は教員達の監督下のもとで公衆に医療サービスを提供する実習がある。

## 重要人物—名誉博士

アテネ大学創設以来、ほとんどのギリシャ大統領、首相、また驚くべき数の大臣と裁判官が我が大学の卒業生や教授達である。1860年以來は科学、教養、芸術分野などで活躍する多くの重要人物がアテネ大学の名誉博士号を授与されている。

とりわけ、アテネ大学名誉博士であるノーベル賞受賞者は：

- John Nash (ノーベル経済学賞)
- Edward Prescott (ノーベル経済学賞)
- Harry Markowitz (ノーベル経済学賞)
- Peter Agre (ノーベル化学賞)
- Jean-Marie Lehn (ノーベル化学賞)
- François Jacob (ノーベル生理学医学賞)
- Luis J. Ignarro (ノーベル生理学医学賞)
- Herald zur Hausen (ノーベル生理学医学賞)
- Derek Walcott (ノーベル文学賞)
- Odysseas Elytis (ノーベル文学賞)
- Iosif Sifakis (チューリング賞-計算機科学におけるノーベル賞)

同様に、アテネ大学名誉博士で科学の進歩において重要な役割を果たした人物：

- Pierre Paul Émile Roux (1912)
- Charles Émile Picard (1937)
- Max Planck (1937)
- Sir Alexander Fleming (1946)
- George Papanicolaou (1949)
- Nicholas Negroponte (1999)
- Rudolph Emil Kalman (2003)





教養、芸術、そして政治、教会分野でアテネ名誉博士号を取得し、また国際的にも著名な人物：

文学作家/ジャーナリスト/哲学者/小説家

- Joseph Rudyard Kipling (1924)
- Ioannis Ritsos (1987)
- Umberto Eco (1995)
- Avram Noam Chomsky (2004)
- Peter Stein (2004)
- Margaret Atwood (2013)
- Eleni Glykatzi-Ahrweiler (2014)

## 政治家(ギリシャ国外)

- Léon Gambetta (1870)
- Georges Clemenceau (1912)
- Woodrow Wilson (1918)
- J. William Fulbright (1978)
- Jacques Delors (1992)
- Glafcos Clerides (1996)
- Roman Herzog (1997)
- Vladimir Putin (2001)
- Jacques Lang (2001)
- Giuliano Amato (2001)
- Vaclav Klaus (2006)
- Helmut Schmidt (2014)
- Ferenc Madl (2014)
- François Hollande (2015)
- Nikos Anastasiadis (2016)
- Pierre Moscovici (2017)



## 聖職界・教会での人物

アテネ大主教, Prokopios (1882)  
ルーマニア大主教, Dragomir Dimitrescu (1887)  
イスタンブール大司教, エキュメニカル総主教, Beniamin (1937)  
キプロス正教会首座主教, Makarios (1957)  
スイス大主教, Damaskinos (1990)  
全ロシア、モスクワ総主教, Alexios 2世 (1992)  
全アルバニア、ティラナ大主教, Anastasios (1998)  
イスタンブール大司教, エキュメニカル総主教, Bartholomeos (1999)  
アメリカ大司教, Dimitrios (2005)  
カンタベリー大司教, Rowan Williams (2010)  
全ギリシャ、アテネ大司教, Ieronimos 2世 (2010)  
アレクサンドリア、全アフリカ総主教, Thodoros 2世 (2012)

## 2カリキュラム、施設とサポート

### 2.1.アテネ大学のカリキュラム

#### 2.1.1.学士課程

アテネ大学では8つの学部、神学、法学、政治経済学、哲学、自然科学、保健科学、教養学、保健体育・スポーツ学科と 33学科で構成されており、各学科に各プログラムがあり、33学科の学士学位となっている。

大学入学資格者はギリシャ法によって高等学校卒業者と定められている。

カリキュラムには、必須科目、選択科目とテーマ別科目、また選択必修科目には、実験、セミナー、校外活動、臨床研究、実習、卒業論文等があり各学生は、各自のプログラムに応じて履修する。

カリキュラムの構成と内容は、新たな視点、教育動向、新技術、そして市場での要求に対応した内容のカリキュラムを毎年各学科で決定する。

また、多数の実験室、臨床研究所、博物館、図書館、読書室、研究所の施設があり、更には外国語講座や外国人留学生のための現代ギリシャ語講座も設けられている。これらは、教育水準を高めるだけでなく、教育指導が充実していればいるほど社会への貢献が高まるため、特に重要であると考えている。

学士取得には、10学期の学科と12学期の医学部を除いて最短では8学期となっており、単位数と試験の成績により学士号の最終成績が決定される。学士号の10段階の最終評価は次のように分類される：優は8.51から10、良は6.50から8.50、可は、5から6.49。

#### 2.1.2.修士・博士課程

136プログラムある修士・博士課程プログラムは-大学施設、各研究所、海外大学 - と共同に行っている。このうち、以下の4つのプログラムが研究機関と協力研究をしている。

- “Athens International Master’s Program in Neurosciences”：アテネアカデミー医学生物学研究所、ギリシャPaster研究所、バイオメディカル研究センター “Alexandros Fleming”、自然科学総合研究センターデモクリトスと共同研究(学科内)。
- “マイクロエレクトロニクス”：ナノサイエンス&ナノテクノロジー研究所、自然科学総合研究センターデモクリトスのINN、

- 通信システム研究所 大学と共同研究(学科内)。
- “医学と生物学における情報テクノロジー”:財団との協力  
アテネアカデミー医学生物学研究所と情報メディア研究所  
自然科学総合研究センターデモクリトスと共同研究(施設機関内)
  - “医療物理学 - 放射物理学”:ギリシャの原子力委員会と  
自然科学総合研究センターデモクリトスと共同研究(施設機関内)。
  - 海外との修士・博士課程プログラム

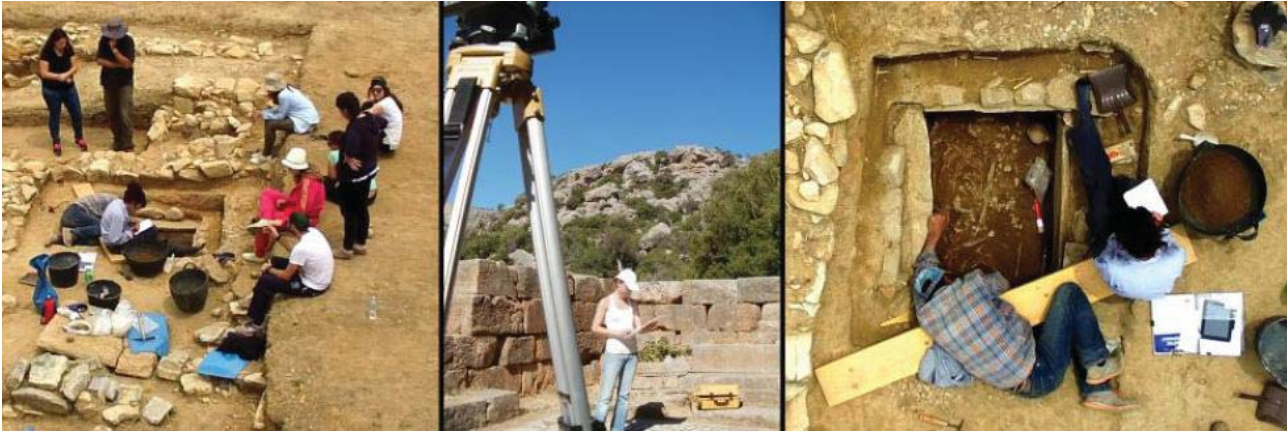
特に興味深いのは、海外の大学院とのプログラムである。それらは(及び提供する学科)は以下の通り。

- European Master in Classical Cultures - (EMCC)- は、古典研究に携わるヨーロッパ諸国のプログラム。8各国の11大学が参加している(史学・考古学科)。
- ギリシャーフランス共同プログラム“Specialised Public Law”(法学部、Montesquieu-BordeauxIV大学)
- ギリシャーフランス共同プログラム“Foreign Languages Teaching in Europe”(フランス文学科と Angers大学)。
- 教育と人権における共同大学院プログラム(幼児教育学科と Institute of Education, University College London)。
- ナショナルプログラム“European Master’s Programme on Society, Science and Technology”(史学・哲学サイエンス学科)。
- “Intravascular Surgery”(史学科と Milano - Bicocca大学)。
- “Clinical Neurophysiology”(医学部とMcGill大学のMontreal Neurological Institute)。
- “数学の教授法と方法論”(アテネ大学の数学科, 哲学・教育・心理学科とキプロス大学数学・統計学科)。
- 学校でのカウンセリングと指導”(教育学科とキプロス大学心理学科との共同研究)。

### 英語による大学院プログラム

「東南ヨーロッパ諸国の研究」は政治行政学科において1999年に設立された。設立当初は他国の大学と協力していたが、その後の過程で独自のプログラムへと発展した。以来多くのギリシャ人と36ヶ国からの留学生が受講している。

上記とは別に、2017-18年度には英語による大学院プログラム3講座が新たに開設された。



- Master in Greek and Eastern Mediterranean Archaeology (<http://meditarch.arch.uoa.gr/site/meditarch>).
- Athens International Master's Programme in Neurosciences (<http://masterneuroscience.biol.uoa.gr>).
- Master in Business Administration Program, with specialization in Internal Audit (<http://www.ddomo-ia.econ.uoa.gr>).

最後に、アテネ大学は博士論文において共同研究のために28ヶ国との海外機関との議定書を結んでいる。([http://www.uoa.gr/fileadmin/user\\_upload/ekpaideysh/spoydes/PhD\\_EidPrwtokollaSynergias012017.doc](http://www.uoa.gr/fileadmin/user_upload/ekpaideysh/spoydes/PhD_EidPrwtokollaSynergias012017.doc))

### 2.1.3. 博士後研究

アテネ大学では各学科の研究分野でポストドクターとの共同研究にも携わっている。共同研究では特に指導員もしくは助言等の支援を行い、スタッフ、材料及び装置等を大学研究プロジェクトとして報酬の有無に関わらず提供している。

### 2.1.4. サマースクール

「サマースクール」は、国、大学、または多くの学生の興味深いテーマを特定の地域で行っている。2016年のサマースクールは: “Cultural Heritage Management: Archaeology, architecture and urban planning”-Summer School in Athens, Marathon and Kea (Cyclades, Aegean Sea)で行われた。



### 2.1.5.学生の特別/優秀賞

アテネ大学では、学部および大学院の学生が研究対象の国際大会や研究イベントに参加することを奨励している。

学生グループは、教授の指導の下、国際競技会やオリンピックで優れた評価を受けている。アテネ大学の学生グループの最近取得した賞は以下である:

- 2017年、マドリッドComplutense大学で開催された国際学会「神話と感情」で英文学科修士課程学生グループが受賞。
- アテネ国立カポディストリアコ大学法学部の学生グループが国際大学コンクールのヨーロッパツアー-ELSA Moot Court Competition on World Trade Organization Law (EMC2) (2017年)に参加し、Award for Best Written Submission RespondentとAward for Best Written Submission Overallを受賞。
- 法学部学生グループが国際大会Manfred Lachs Space Law Moot Court Competitionで2年連続欧州チャンピオン(2016年、2015年)。
- International Commercial Arbitration Moot 2016での法学部の見解。
- 2017年のSouth-Eastern European Mathematics Olympiad for University Studentsで数学科の学生グループが3つのメダルを獲得。
- 数学科5人のチームが学生大会IMC 2016で5つのメダル(金1、銀2、銅2)を受賞。
- 国際数学オリンピックSEEMOUS 2016 (South-Eastern European Mathematics Olympiad for University Students)で金を受賞。

- NATO Public Policy Divisionが主催した国際大会「Peace and Security in the 21st Century - a Youth Perspective for Achieving It」で史学・考古学科の大学院生が受賞(2016)。
- 情報通信学科の学生がイノベーション大会NBG i-bank #fintech crowdhackathon(2016)で第1位を獲得。

## 2.2.施設とサポート

大学の敷地面積は総面積約70万㎡。それらは教育、研究、行政と区分され、大学キャンパスはZografou地区に哲学部、科学部、神学部、Goudi地区に保健科学部、アテネの中心地区に法学部、政治経済学部、教養学部、Dafni地区には保健体育・スポーツ学科が置かれている。大学複合施設では様々な通信技術と設備の整った教育研究や研究所を備えた様々な規模の教室を備えてある。

アテネ大学はまた、学部生及び大学院生を支援するための施設やサービスを提供している。カテゴリー別に下の表を参照。

コンサルティングサービス	サポートサービス	学習施設 レクリエーション
学生のためのオンブズマン		8校舎の大学図書館(校内) 大学教育センターの2図書室
心理社会的介入単位	障害を持つ学生のための環境設備	コンピュータセンター
神学部のカウンセリング室	学生救済基金	学生のためのマルチメディアルームサービス
諮問委員会	学生食堂	外国語講座
保健コミュニティーユニット	食品サービス	現代ギリシャ語講座
同世代アドバイスセンター	奨学金 - 賞	大学ジムとスポーツセンター
		学生文化クラブ

## 現代ギリシャ語講座 (<http://en.greekcourses.uoa.gr>)

アテネ大学の第二外国語/外国語としての現代ギリシャ語講座は1950年より開設され、当初は少数の学生の参加であったが、その後、数十年後には目を見張るほどに生徒数が増加した。この講座は世界最大のギリシャ語講座である。この講座の卒業生には世界中のギリシャ語文学に携わる教授達、各国の外交団員、教会メンバー、著名な科学者、そして著名なアーティストや起業家がいる。

もともとギリシャ語講座は哲学・教育学・心理学科の大学院プログラムの教養講座(第二外国語/外国語講座)の一つとして開設された。

教授目的:

- 第二外国語/外国語としての現代ギリシャ語の教授
- 第二外国語/外国語としての現代ギリシャ語レベルの認定
- 留学生のためのギリシア文化におけるテーマや科目との接点
- 大学院プログラムの学生達の第二外国語/外国語としてのギリシャ語の実践訓練

現代ギリシャ語講座では、毎月博物館への訪問が企画されており、

遺跡や歴史的興味深い地域(Sounio, Delphi, Mycenae, Epidavros, Nafplio)へのツアーがある。

これらのツアーは学生のレベル(初級、中級、上級)に見合ったコースとなっており、ツアー内容に伴い学生は絵画資料、単語の練習、歴史的背景といったこれらのツアーの準備を行う。

## 外国語講座 (<http://www.didaskaleio.uoa.gr>)

外国語講座は1931年に設立され、もともとは大学の教育クラブの一部であった。当初の目的は外国語教養であり、最も広く話されていた英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語のみであったのが後にスペイン語とロシア語が追加された。大学の決定により1994年に、外国語教育センターとして完全に独立した。

今日では、英語、アルバニア語、アラビア語、ブルガリア語、フランス語、ドイツ語、デンマーク語、日本語、インド語(ヒンディー語 - サンスクリット語)、スペイン語、イタリア語、中国語、韓国語、ノルウェー語、オランダ語、ペルシャ語、ポルトガル語、ロシア語、セルビア語、スウェーデン語、トルコ語、チェコ語、フィンランド語がある。さらに、特化したい学生には、翻訳、法律、医学といった専門的なプログラムも用意されている。



## 博物館



アテネ大学の歴史博物館は、行政当局によって管理されている。「Kleanthous House」または「Palio Panepistimio」としてアテネの歴史的な中心プラカ地区にある。1837年から4年間は、独立後のギリシャ国家の最初の大学として運営された。1987年以降、150年経った現在は博物館として運営されている。博物館はアテネ大学とギリシャ社会を繋いでいるだけでなく、近代ギリシャにおける教養者達の作品と歴史を残している。

このような教育研究や国の発展の歴史で満たされている博物館内では政治的・科学的関連のイベント、また夏季は外部の中庭で、演劇や音楽イベントを開催している。

さらに歴史博物館ではUNIVERSEUM (European Academic Heritage Network)と呼ばれるヨーロッパネットワークや2015年には第16回ヨーロッパ16ヶ国の大学の参加による会議といった国際的なイベントも開催している。アテネ大学設立180周年記念の一環として、「アテネ大学のエンブレム - 現代視覚的アプローチ」というテーマで展示会を開催。この歴史博物館の他にもアテネ大学の各学科に所属する13の各博物館が存在する。

## 1. Georgios Papanikolaos収集による解剖学博物館

医学部に所属する解剖学博物館は、解剖学研究に不可欠な博物館である。博物館には、古代と現代の解剖体(実物、人工物、木製、レプリカ)だけでなく、解剖に必要な古代の用具も展示している。さらにGeorgios Papanikolaosコレクションには希少な写真、書簡のみならず医学者としての研究作品も展示されている。

## 2.人類学博物館

1886年に設立された医学部の人類学博物館は、ヨーロッパで最も古い人類学博物館の一つである。その信念は、研究的要素を自然人類学分野へ譲渡すること、また現在までのギリシャのデータのために先駆的な役割を果たしているといえる。それは博物館としての意義以上に大学研究を推進させているといえる。

## 3.犯罪博物館

犯罪博物館は、法律第5343/1932号に従い医学部が所有している。この博物館は19、20世紀のギリシャの犯罪内容の収集、分類、コメントの歴史を記録している。

## 4.薬学博物館

医学部所有の薬学博物館は1998年に医学研究所の小さなチームによって設立され、研究所としても使用されている。

## 5.歯学博物館

展示内容の中心は、法人機関(主に歯学・口腔学研究所と歯学科の研究室)と個人の寄贈により成り立っている。展示物は待合室、公会堂の入口、研究室の適切な場所に配置されている。

## 6.考古学美術史博物館/キャンパスシティ考古学公園

博物館には、先史時代と古典時代、注目すべき彫刻、ビザンチン絵画や陶器、年代別における地中海地域の陶器、環境考古学、岩石・鉱物、古代テクノロジーの所蔵品が展示されている。所蔵されているギリシャを代表する近代ギリシャ人画家の近代絵画はギリシャ国内外で脚光を浴びている。最近では古代エチオピア作品を所蔵している。アテネの地下鉄シンタグマ駅構内には当時の発掘された遺跡の状況をそのまま展示している。

## 7.教育学博物館

所蔵品は、様々な歴史的物品、書籍、教育学的視点による体力・精神測定器具、写真、学用品、制服、学習事項、ゲーム、電子プログラム等である。

## 8.神学部の聖書博物館

展示品は宗教に関する物品や聖書に関連する人々の日常生活の複製品で構成されている。

ルーヴル美術館から取り寄せたハンムラビ・コード(2.25×0.90)、メサ・コラム(1.25×0.72×0.36)、Salmanasar IIIのオベリスクがある。また 壺、コイン、フィギュア、銃等のレプリカも展示している。



## 9.薬草博物館/薬草庭園

博物館で特に重要なのは、T. von Heldreich, Th. G. Orfanidi B. Tountaを乾燥させたサンプルである。ほとんどの植物が未登録であり、報告されている数よりも多くある(117,000サンプル IndexHerbariorumに記載された)。博物館の最新の所蔵には、菌類サンプルも含まれている。これらはアテネ大学の生態分類学が主にこれらの薬草に携わっている。この博物館の常設展「アッティカ地域」は1980年代半ばにピレウスで開催された。アテネ国立カポディストリアコ大学の植物園には、1835年に設立された200種の植物が栽培されている「聖なる道」がある。多種の樹木や低木があり(何本かは長寿)、また小さな人工湖には水生植物もある。特に興味を引くのは樹高の高い *Cupressus sempervirens*, *Phoenix canariensis*, *Washingtonia* sp.、また歴史的にも意味を持つ *Acanthus mollis*と *Conium maculatum*である。



### 10.動物博物館

動物博物館は130年の歴史がある。博物館の中でも最も古く、充実している。もともとは19世紀半ばにアカデミアス通りにある大学本館1階に設立された自然学博物館の中心であった。後に薬草学、古生物学、鉱物学および人類学の所蔵品はそれぞれに分類され、各博物館の所蔵品となった。

### 11.鉱物・岩石博物館

1908年に鉱物・岩石博物館が設立された。1980年から2000年の間は 運送と改装のため閉館していた。

### 12.自然科学技術博物館

博物館では、国立測量局の機器を所蔵しており、ギリシャ初のレントゲン(1897年以来)、希土戦争やドイツ占領下時で使用されたアレクサンダーソン式無線機が展示されている。博物館は現在改装中であり、近日中にもSolonos通りの歴史的建造物Palαιο Chimio内で再開される予定。



### 13.古生物・地質博物館

1906年に設立された。ギリシャのみならず海外の豊富な脊椎動物、無脊椎動物、植物、化石、古生物のコレクションや地質学的サンプルが常設展となっている。



## 歴史的資料庫

アテネ大学の歴史史料庫は1991年に設立され、大学の研究センターとして、行政部が管理している。歴史的資料庫の目的は1837年創立以来のアテネ大学の歴史的資料を分類、管理、保存することである。これらの資料は、アテネ大学の歴史のみならず、ギリシャやヨーロッパ諸国の研究でも必要とされる。アテネの中心にあるSkoufa通りにある歴史的資料庫は約2,000,000枚ほどの書類が保管されている。

## 図書館

アテネ国立カポディストリアコ大学の図書館は8学部を設置され、各自が独立しており、図書館中央コンピューターセンターにて管理されている。その職務は、教育研究活動や管理およびギリシャ、国際学術コミュニティへ配布し、教育と文化のためのあらゆる活動へ参加することである。

アテネ大学の図書館には、約1,000,000件の書籍と30万件以上の科学雑誌が保管されており、国立図書館、テッサロニキ・アリストテレス大学図書館とともにギリシャの3大図書館の1つとなっている。

アテネ大学は、Hellenic Libraries Loan Networkのメンバーである。Hellenic Academic Libraries Associationネットワークの開発により、相互貸借「Iris」システムを通じてメンバー間での貸借ができるようになった。また、学術コミュニティメンバーの教養や研究のために定期刊行物や学会記事のリクエストにも応じている。アテネ国立カポディストリアコ大学はリクエスト記事のために国立ドキュメンテーションセンターと提携しており、リクエストの記事が国内であれば国立科学技術図書館ネットワークの刊行物リストセンターが携わり、海外の場合はBritish Library Document Supply Center (BLDSC) やSUBITO (ドイツ図書館)といった海外の図書館と提携している国立ドキュメンテーションセンターが携わる。

最後に、国際図書館と情報センターによりアテネ大学へ提出された学士論文、修士論文、博士論文の全てがアテネ大学付属機関に登録されている(<https://pergamos.lib.uoa.gr/>)。



### 大学の教会Kapnikarea

聖母マリアと聖女バルバラ(Kapnikarea)を讃える11世紀ビザンチン教会はエルムー通りにあり、1932年に神学部を通じてアテネ大学の所有とされた。

## 3.公開事業と国際関係

### 3.1.序文

アテネ国立カポディストリアコ大学の歴史的伝統と人間開発が大学の原動力となっており、それらがビジョンと目標の基礎にもなっている。研究とイノベーションの成果、ギリシャ国内外の卒業生達の成功が国際的発展へと推進させることを目的とし、また研究成果を齎すような公開や国際関係を築くことを目指している。アテネ国立カポディストリアコ大学の広報史学部には広報科、風俗&文化イベント科、ヨーロッパ国際関係科、音楽&歴史資料科がある。その多種多様の分野の学科は、すべての関係者にタイムリーかつ必要な情報と結果を提供できるため、大学ミッションを支える重要な部門となっている。理事会の優先事項には、大学での公開事業および国際的関係への発展という項目がある。それらは教育、研究、その他の学術的コミュニティ内容の公開や大学の科学的・文化的事業の計画や編成等の公開である。また、海外の大学で成果を評価されるように欧州や国際関係の学科へのオファーも重要としている。それは国際協定に従い、欧州、国際教育プログラム、大学ネットワーク、ERASMUSプログラムへの参加などである。

さらに、プレスオフィスは大学の国際的見解やメディアの成功だけでなく各イベントにおいても地域、地方、国際レベルでのジャーナリストとの主な接点になっている。学術コミュニティの定期的なプレスリリースによって、教職員や卒業生達の受賞、国際的なコラボレーション、大学の先駆的開発、研究協力等といった内容の記事が大学活動に従事する者全てに有用となるのである。

### 3.2.国際オリエンテーション - 国際協定とパートナーシップ

これまで述べたように、大学の国際協定は国際関連機関や欧州教育委員会プログラムとの協力を伴うことにより特に重要視される。この戦略は、教育、研究、および大学の実情、そして大学の国際的なプロフィールとなる。アテネ大学は学生や学術的人物、他の分野での優秀者のモビリティ向上を目指して他大学、国際ネットワーク、研究センター、さらには世界の研究機関と協力している。国際協力協定は、同等レベルの大学のみならず、研究機関とも契約ができ、大学間協力の促進、知識や情報交換、知識と研究の促進といった重要な役割を担っている。また、以上のこと以外にも共同研究プログラムや会議(シンポジウム、学会等)といった内容が協定事項とされる。

海外の大学、もしくは大学レベルに相当する高等教育機関CERN(スイス)、INRIA(フランス)、A \* STAR(シンガポール)との国際協力協定が締結されている。今日以下の29カ国の63大学/機関と協定が結ばれている。



国	機関
アルゼンチン	Universidad Nacional Del Sur
オーストラリア	Macquarie University
ブルガリア	Bulgarian Academy of Sciences
ブルガリア	Sofia University “St. Kliment Ohridsky”
フランス	Université de Lille 1
フランス	Université Paris Diderot-Paris 7
フランス	Université de Lille 3
フランス	Institut National de Recherche en Informatique et en Automatique (INRIA)
フランス	Université du Havre
ドイツ	Universität Regensburg
ドイツ	Freie Universität Berlin
スイス	Conseil Européen pour la Recherche Nucléaire (CERN)
アメリカ	Temple University
アメリカ	California State University, Sacramento
アメリカ	University of Kentucky
アメリカ	St. Cloud State University, Minnesota
日本	Keio University
日本	Ritsumeikan University
日本	Waseda University
ヨルダン	University of Jordan
イラン	University of Tehran
スペイン	University of Granada
スペイン	University of Alcalá
イタリア	University of Rome “La Sapienza”
カナダ	York University
カナダ	University of Montreal
カナダ	Simon Fraser University
カナダ	McGill University
中国	Shanghai International Studies University
中国	Beijing Foreign Studies University
中国	China University of Petroleum

中国	Guangdong University of Foreign Studies
中国	Zhejiang University
コロンビア	National Pedagogic University
韓国	Hankuk University of Foreign Studies
韓国	Sogang University
キプロス	University of Cyprus
キプロス	European University Cyprus
キプロス	University of Nicosia
キプロス	Neapolis University - Pafos
メキシコ	University of Guadalajara
ニュージーランド	The University of Auckland
チェコ	Charles University in Prague
南アフリカ	University of Pretoria
ハンガリー	Eötvös Lorand University
ウクライナ	Taras Shevchenko National University of Kyiv
ウクライナ	National Academy of Sciences
ウクライナ	Ivan Franko National University of Lviv
ウクライナ	Borys Grinchenko Kyiv University
ウクライナ	Mariupol State University
ウルグアイ	University of the Republic (Universidad de la República)
ルーマニア	Alexandru Ioan Cuza University of Iasi
ルーマニア	Valahia University of Targoviste
ロシア	Lomonosov Moscow State University
ロシア	Moscow State Institute of International Relations-MGIMO University
ロシア	Novosibirsk State University
ロシア	Moscow Region State University
シンガポール	Agency for Science, Technology and Research (A* STAR)
台湾	National Chengchi University
台湾	National Taiwan University
トルコ	Istanbul University
トルコ	Kadir Has Istanbul University
トルコ	Ankara University

### 3.3.国際機関、大学ユニオンとネットワークへの参加

アテネ国立カポディストリアコ大学は、主要国際機関のメンバーとして参加している。大学ユニオンとネットワークは、大学間の国際化促進と教育研究活動の改善における戦略開発を目的としている。アテネ大学は設立メンバーであり、以下の大学ネットワークに積極的に参加している。UNIMED (Mediterranean Universities Union) <http://www.uni-med.net>

- UNICA (Network of Universities from the Capitals of Europe) <http://www.unica-network.eu>  
また、国際協力促進を目指して以下の6つの国際機関、ユニオン、ネットワークに加盟している。
- IAU (International Association of Universities) <http://www.iau-aiu.net>
- EUA (European University Association) <http://www.eua.be>
- E A I E (European Association for International Education) <http://www.eaie.org>
- UNEECC (University Network of the European Capitals of Culture) <http://www.uneecc.org>
- IIE (Institute of International Education) <http://www.iie.org>
- BUA (Balkan Universities Association) <http://www.baunas.org>

学部および学科、教職員は国際学術協会およびネットワークのメンバーである。最後に、アテネ大学が1988年以来基盤となっている「Magna Charta Universitatum」に署名したことは留意すべきことであり、UNITWIN / UNESCOは次の通りである：

UNESCO Chair and Network on Sustainable Development Management and Education in the Mediterranean(MEDIES)

([http://unescochair.chem.uoa.gr/#UNESCO\\_Chair\\_and\\_Network\\_on\\_Sustainable\\_Development\\_Management\\_and\\_Education\\_in\\_the\\_Mediterranean](http://unescochair.chem.uoa.gr/#UNESCO_Chair_and_Network_on_Sustainable_Development_Management_and_Education_in_the_Mediterranean))

UNESCO Chair in Adolescent Health Care

(<http://www.unesco.org/en/university-twinning-and-networking/access-by-region/europe-and-northamerica/greece/unesco-chair-in-adolescent-health-care-909/>)

### 3.4.エラスムスプラスプログラム(Erasmus+)

アテネ大学は、Erasmusプログラム(1987年)設立当初から積極的に参加しており、現在は学生が留学奨学金の恩恵を受けられるエラスムス+のプログラムにも参加し、欧州大学学生や研究者の交換留学制度を擁護している。エラスムスプログラム開始から現在までの応募者数は、約5,000人以上に増え、利用者数は約13,000人である。ヨーロッパ委員会が発表したErasmusプログラムに関する2013-14年度の統計(最新データ)によると全ヨーロッパの高等教育機関内でアテネ大学の派遣学生数は41位であった。

エラスムスプログラムに参加した学生と研究員が 新しい学問環境への変化だけでなく日常生活や社会的、文化的な貴重な経験を得るためにもこのモビリティ的プログラムを奨励し続けていくつもりである。

ERASMUS +プログラムのモビリティ活動は、アテネ大学と他のヨーロッパの大学との間でのエラスムス協定で成り立っており、2017-18年度には31カ国のヨーロッパ諸国の336大学とアテネ大学でエラスムス協定が締結された。

さらに、アテネ大学は新しくロシア連邦、イスラエル、ヨルダン、ウクライナ、セルビア、ジョージアの大学ともErasmus + International Mobilityを締結した。

エラスムスプログラムを通じてのアテネ大学への留学生は、アテネ大学の教育的・文化的全ての活動に参加することを勧めている。現代ギリシャ語講座でギリシャ語の無料レッスンを受けられるように考慮したり、また哲学部演劇研究科が提供する複合講座「現代ギリシャ：歴史・芸術・書簡」を受講することも勧めている。

最後に、個人のモビリティ活動を除けば、アテネ大学はERASMUS +の基本的な活動(Key Actions)、例えば活動2：イノベーションと善行慣行の交換に関する協力活動や活動3：政策改革と実施の強化：Jean Monnet活動(全ヨーロッパ研究の分野と教授の促進を目指す)とスポーツ分野での活動等の参加を奨励している。

詳細は: <http://en.interel.uoa.gr/erasmus.html>

## 4.アテネ国立カポディストリアコ大学の研究とイノベーション



### 4.1.大学の目的と方針

アテネ大学は、広範囲の学術分野に関与しており、幅広い研究活動、ヨーロッパプロジェクトへの多大な参加、国際的ネットワーク、公共および民間部門への関与にも参加している。大学の活動では、著名な研究者達と協力している。大学の行政方針は教育ミッションを伴った相互作用であり、世界の主要研究機関、政府機関への提供、合同協力を強化することを目指していることである。

大学の研究方針は、すべての分野での実質的な成功結果を目指し、グループ研究と個人研究とを差別せず、個人若しくは共通の新研究チームの創設によりイノベーション活動のための好都合な環境を育んでいくことである。社会全体の利益のために科学的知識を促進する学術的研究も奨励している。学術的な革新法や実践方法を教授し、社会的結束、国際開発、そして社会の経済的繁栄に提供できるような貢献をすることを目指している。

特に大学院レベルでは新しい研究事業に携わるようになっている。

アテネ大学の研究方針は以下の重要な目標によって特徴づけられる。

(a) 大学院生に必要なスキルの開発。研究過程の一部では、研究室での研究活動を行うか、または学会への参加や国際雑誌に発表すること、

(b) 博士候補者およびポストドクターは研究チームのプログラム、または大学教授の研究プログラムへの参加、もしくはギリシャ国内、国外の関連者との共同研究

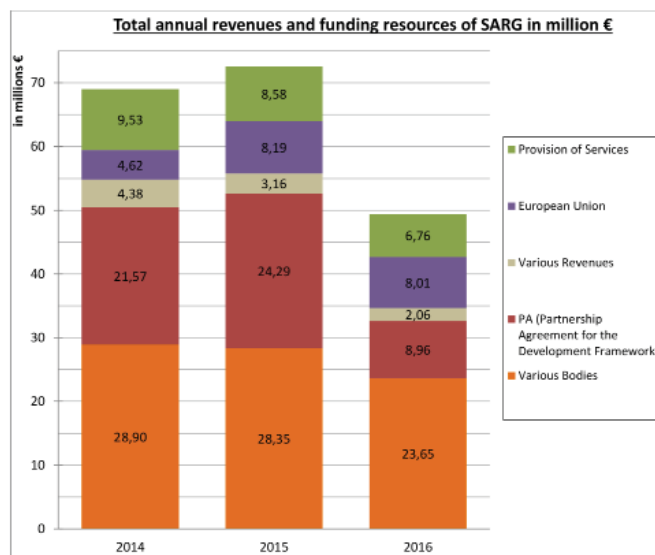
(c) 学科/学部の促進、発展を促すためにセミナーや学会運営、学会での研究発表、専門誌での研究発表、著作、監修等の業務を行うこと

(d) 卒業証書の取得とともにアテネ大学で培った研究成果の認識、マッピング、経済的活用、知的財産の保護等。

## 4.2. 数値にみられる研究状況

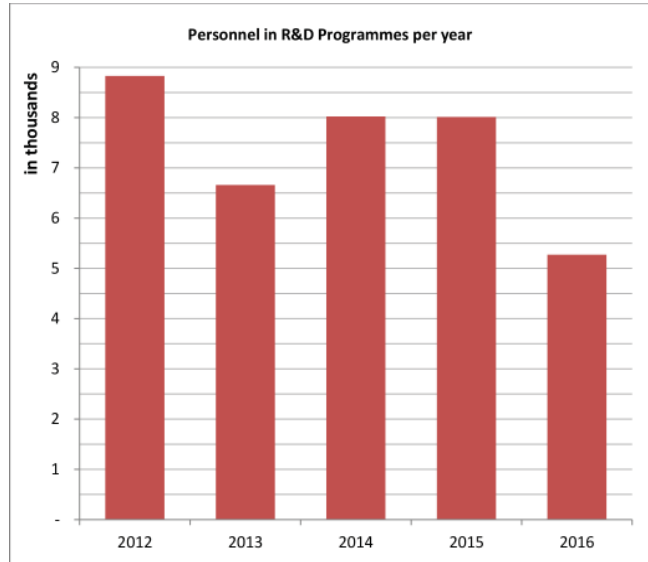
研究委員会は、研究開発や運用のための大学の研究資金を扱う機関である。アテネ大学の研究資金の主な源泉は、欧州および国際プログラム、国家戦略リファレンス、公的機関および民間機関とのパートナーシップ、法人および一般人への研究提供、スポンサー、寄付である。

過去3年間は、大学教授達の研究開発費の年間平均資金調達額が6,000万ユーロを超えているのは以下の図の通りである。

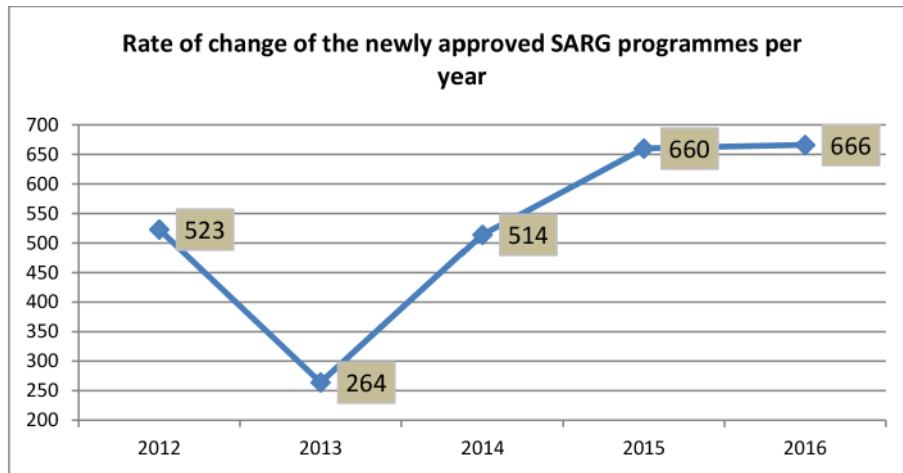


アテネ大学の研究資金機関にて実施される研究プロジェクトでは、毎年大学教授陣とは別に博士課程者やポストドクター、研究者、その他研究に携わる人々5,000~9,000人が雇用されている。

大学の教授達のプロジェクトや研究開発のための人材の雇用は若い科学者の失業の減少と海外への流出を止めている。



過去5年間の非正規の従業員の年間内訳研究開発プロジェクトチャートは以下になる。



今日、アテネ大学の研究資金機関は、2000以上のアクティブなプロジェクトを管理しているが、下のチャートには、過去5年間に毎年承認された新しいプロジェクト数を示している。

### 4.3. 大学病院、保健科学部が所属する研究所



#### 大学病院

大学病院の「ARTAIΕΙΟ」と「AIGINITEIO」は一般財団病院であり、Th. AretaiouとD. Aeginitosの遺産である。それらは学長とギリシャの法律によって運営されており、医療サービスにおいても、医学分野の教授・研究においても確立した地位を築いている。

「ARTAIΕΙΟ」病院でアテネ大学医学部の教授・研究所が所属するのは以下である：

- 第2外科
- 第2産婦人科
- 第1科放射線科
- 第1麻酔科
- 新生児科
- 腎疾患科

重要な数のサポート部門と研究所がある。





アテネ大学医学部は「AIGINITIO」病院では、以下の分野に所属する。

- 第1次神経学科
- 第1精神科

多くのサポート部門と研究所がある。

この2つの大学病院は、ギリシャ民衆への厚生サービスや専門知識に従事し、そして今日まで高質の医療サービスや医学部学生への教育・研究を提供してきた。

### 保健科学部の支援を受けている機関

重要な教育と研究活動は、アテネ大学健康科学部の所属先で行われる。

76のセクションがある：

- 医学部に所属する60機関
- 11機関は看護学科に所属
- 5機関が歯学科に所属

アテネ大学の医学部と看護学科に所属するは病院（国立Attiki病院、国立Laiko病院、国立Ip-pokrateio病院、国立Euaggelismos病院等）、歯科医院は独立して活動している。



### 研究所

年間を通じて、研究者、教職員および学生が210ヶ所のアテネ大学の研究所で働いている。多くの学部にとって、研究所が実質的な応用研究の中心を成している。



## 付録

ある日、コロクトロニスは一アテネの自宅に居た。  
彼の息子コリノスは書いていた手を止めたので彼に尋ねた：

- コリノス、ギリシャ国家の家とは何と思うか？

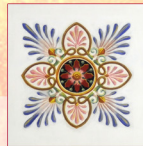
コリノスはすぐに答えた：

- 王の宮殿。

- 王の宮殿？ そうではない、大学である！と彼は言った。

Yannis Blachogiannis、アンソロジー、1927年、218.

Dr.渡辺りま アテネ大学外国語講座・元教師



[www.uoa.gr](http://www.uoa.gr)

出版：アテネ、スタディウ通り5番, 105 62  
電話 210 36.89.374-5, 210 36.89.391。